

《ポルトガル》

1 リスボン市内視察

(1) テージョ川に浮かぶ貴婦人「ベレンの塔（世界遺産）」

16世紀初め、マヌエル1世の命により、船の出入りを監視する要塞として建てられた。マヌエル様式の優雅なテラスをもつこの塔を、司馬遼太郎氏は貴婦人がドレスの裾を広げている姿にたとえ「テージョ川の公女」と呼んだ。海と川との境にある石造りの塔は、故郷を旅立つ二度と帰らぬかもしれない船乗りたちを見送り、また、幸運にもポルトガルの土を再び踏むために戻ってきた男たちを優しく迎えてきた。2層の堡塁部分と4層のタワー部分からなり、6階は王族の居室、5階は食堂、4階は「国王の間」、3階は兵器庫、2階は砲台、1階は潮の干満を利用した水牢だった。

(2) 日本発見の年号もある「発見の塔」

1960年にエンリケ航海王子の500回忌を記念して造られたモニュメント。高さ52m、帆船をモチーフとし、大海へ乗り出す勇壮なカラベラ船を手に先頭に立つのはエンリケ王子。そのあとに天文学者、宣教師、船乗り、地理学者など、この時代に第一線で活躍した人々が続く。エレベータで屋上に上がれば、川を渡る風が心地よく、4月25日橋や対岸のクリスト・レイを展望できる。モニュメント前の広場には、大理石のモザイクで世界地図と各地の発見年号が記されている。日本が発見されたのは1541年となっているが、これはポルトガル船が豊後に漂着した年である。



発見の塔

(3) 大航海時代の栄光を伝える「ジェロニモス修道院（世界遺産）」

エンリケ航海王子の偉業を称え、またヴァスコ・ダ・ガマのインド航路開拓を記念して、エンリケ王子が建てた礼拝堂の跡地にマヌエル1世が1502年に着工。マヌエル様式を代表するこの壮麗な建物は、海外からもたらされた富によって建てられた。まさに、大航海時代の栄華を反映させた修道院といえる。インド航路を発見したヴァスコ・ダ・ガマやポルトガル最大の詩人ルイス・デ・カモンイスの棺が安置されている。

2 ポルト市の概要

ポルトガル北部に位置するポルト市は、リスボンに次ぐ同国第2の都市で、大航海時代の拠点として発展してきた港町である。ポルトガルの国名もこの都市に由来する。主な産業は、商工業と水産業。特にポートワインの名で知られるワインの名産地としては世界的に有名である。

この町は、スペインに源流を持つドウロ川が大西洋に注ぐ丘に広がっており、市街には長崎と同じ坂の多い石畳が見受けられ、古いヨーロッパの面影を伝える美しい街で、銀細工、香水、宝石加工なども盛んである。

3 姉妹都市提携の経緯

出島へ向かったポルトガル船の母港。長崎駐在ポルトガル名誉領事を介して、意向打診を行い締結した。

4 「ソアーレス・ドス・レイス国立美術館」及び「クリスタル宮庭園」視察

1833年に開設。ソアーレス・ドス・レイスは19世紀のポルトガルを代表する彫刻家で、彼の作品を集めた部屋がある。このほか、陶器、中世絵画、ポルトガル現代作家の絵画や彫刻、また日本の南蛮屏風なども展示されていた。

クリスタル宮庭園には、2007年に小学校の協力による「柿の木プロジェクト」で取り組まれた被爆柿の木が植樹されていた。



クリスタル宮庭園の被爆柿の木

5 ポルト市主催歓迎レセプション

参加者約50名（長崎市側31名、地球館館長の牛嶋さん一行6名、ポルト市関係者10数名）により、歓迎レセプションが行われた。



歓迎レセプション

<ルイ・リオ市長挨拶要旨>

ポルト市では、長崎市との絆を強め、深めていくさまざまな事業活動に取り組んできた、2007年、小学校の協力により、クリスタル宮庭園に被爆柿の木を植樹する「柿の木プロジェクト」に取り組んだ。また、2008年5月には姉妹都市提携30周年を記念して「ポルトにおける日本」という事業を展開し、約1カ月間、40以上のイベントを展開した。また、ポルト大学が長崎大学との協力関係を結ぶことに強い関心を示していると同い、ポルト市は必要な援助のすべてを尽くす所存である。

<田上市長挨拶要旨>

長崎の港が世界へ開かれるきっかけとなったのは、16世紀後半のポルトガル船の入港によるものである。そのポルトガル船の出港地であった貴市と、1978年姉妹都市提携を行い、ここに30周年の記念すべき年を迎えた。この間、さまざまな文化交流や人的交流、貴市からの平和モニュメントの寄贈など、多方面にわたる交流が行われた。最近では、昨年、貴市の子どもたちが折った千羽鶴をいただき、さらには被爆柿の木がクリスタル宮庭園に植樹されたと伺い、大変感動した。私たちの姉妹都市が広島・長崎市民と同じ平和への思いを共有してくれているということに大変勇気づけられ、心強く思う。今年は姉妹都市提携30周年を記念して、市民の方々による版画交流、マラソン交流、トランプ交流など、さまざまな分野での交流が予定されている。ぜひこの機会に、長崎からの訪問団との交流を通じ、お互いの友好を深めていただきたい。

引き続き、プレゼント交換、市長・議長による芳名録署名が行われた。

6 ポルト市長主催昼食会

参加者20名による昼食会が行われ、その席でポルト大学と長崎大学の提携についての協議を行うべく、長崎大学側をポルトへ招待する手紙を送付したい旨の相談があり、長崎大学側へポルト大学側の意向を伝えておくことを約束した。